

## 授業紹介

### 【中～高学年】『一文交代、力を合わせて文作り』

#### 〈学習内容〉

- ・学校行事の後の振り返り学習を兼ねて、一緒に活動した友だちと二人ペアになって一文ずつ作文になるように話す（発表する）。

#### 〈学習の目的〉

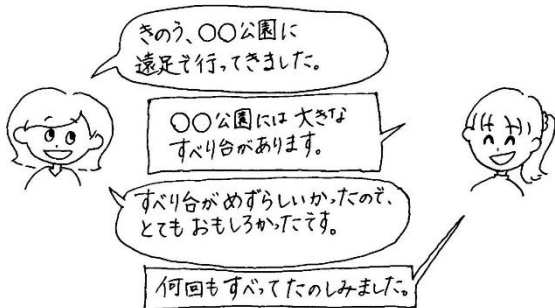
- ①友だちの話を聴く
- ②自分が考えたことを伝えるように話す

#### 〈授業の流れ〉

初めての授業の時には発表の形を取ったため、児童が発表した文を教員がWordに打ち出し、テレビに移して児童全員が見られるようにしました。発表を終えると発表された文を全員で読み直し、分かりにくい表現や助詞の間違いなどがあれば全員で話し合いながら直していきました。この時に大切にすることは、「発表者の伝えたいことが伝わるような文に直すこと」です。分かりにくい文があった時に、発表者の話をもう一度聴いて何が伝えたいのかを知った上で、どうしたら分かりやすくなるかを考えて意見を出し合い、最終的に全員で二人の作文を作り上げました。

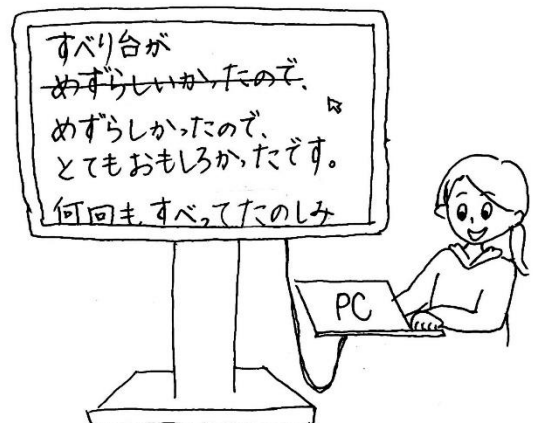
#### ①二人ペアになって発表する。

#### ②発表内容をPCに映し出して全員で共有。



#### ③全員で文章の見直し

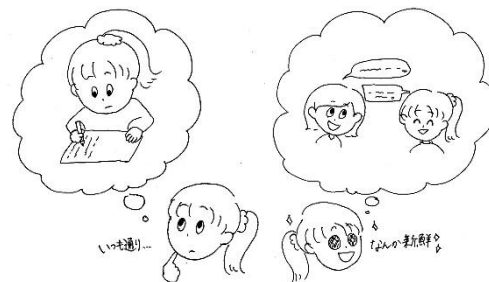
#### ④文章を正しい文章に直して完成へ。



## 〈取り組んでみた結果〉

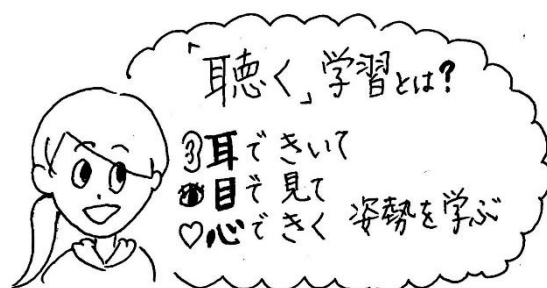
自立活動の一部である聴能学習で取り組みました。

週1回1時間の授業で何時間か連続で授業をすることはできないため、Wordに打ち出しデータを残すことで次週にまたいでも学習を続けられるようにしました。いつも国語科などで一人で書く行事の作文を、友だちとペア・話して進めていくと言う新鮮さから、児童は非常に楽しみながら学習に取り組む事ができていました。



この学習はペアの友だちの話を聞いた後、その話に繋がるように自分の文を考えなければいけないので相手の話を聴いて理解していなければいけません。自分が言いたいことばかりを考えていても、二人の作文は完成しないので自然に相手の話を聴くことができました。また、聴いている児童も「ん？」と文の間違いに気づいたり、教員がWordに打ち出す時に友だちが発表した内容を復唱したりして、聴くことに集中している姿が見られました。発表した文の間違いを指摘された児童が正しく直せなくても、全員で「こうしたらどうか？」と意見を出し合った中から、自分の思いが一番合うものを選ぶことで発表者自身も納得して文を完成させることができ、作文が完成した時には全員が達成感を感じている様子が見られました。

### 聴能学習って…



## 〈今後に向けて〉

今回、どうしても時間がかかってしまい全員が発表者になることが難しかったです。それでも「またしたい！」と要望が出るほど児童にとっては楽しみながら取り組めた学習だったので、工夫をしながら取り組んでいきたいと思っている学習です。全員が発表者になれるように発表前にペアで文を書かせてから発表させたり、3～5分程度の時間制限をした中で話がまとまるように考えさせたりする工夫を取り入れて今後取り組んでみたいと考えています。

